



ぶらり
うちこ

川の自然にふれあえる、やさしい水辺 心のふるさと・小田川を行く

川の自然にふれあえる、やさしい水辺

豊秋河原で毎年5月5日に開催される伝統行事「大風合戦」



小田川は住民の憩いの場であり、心のふるさと

小田川の約15分の1のスケールで再現した「ミニ小田川」は、小さな子どもでも安全に遊べるせせらぎ空間



近自然型工法のモデル護岸

平成元年から約10年かけて行われた改修工事では4種類の護岸が築かれた。①町内で集められた漬物石を含め、自然石をはった「グリ石護岸」 ②コンクリートは使わず自然石を組み、間に柳を植えて強化した「空石積み護岸」 ③地中に石とコンクリート塊を置いて補強した「よろい護岸」 ④2つ以上の巨石をランダムに置いた「数再生護岸」



住民運動の一環として河原で開催された、「水辺の散歩 小田川原っぱ草花調べ」

INTERVIEW



コンクリート護岸じゃ味気ない、新しい川づくりの始まりでした

小田川改修をめぐる住民運動は、全国の川の自然を守る先駆けとなりました。当時の経緯を、「町づくりシンポの会」世話人の亀岡徹さんに尋ねました。

シンポジウムには国や県の河川管理担当者も多数参加



発端は昭和58年のある日、土手の榎林が突然伐られたこと。小田川の工事のせいと知って、仲間と徹夜でチラシを作り町中に配ったんです。それをきっかけに、特に町のお年寄りたちの「川の自然を残して」という声が大きくなり、わたしたちは工事再開を引き延ばそうと河原でいろんなイベントをやりました。また、護岸ブロックの代わりに家にある石を持ち寄る「漬物石一個運動」を始めたら、町の人口以上の数は集まったけど全然足らん。それなら町民が一人1,000円ずつ出し合って自然石を買おうやと、「いかざき小田川はらっぱ基金」を呼びかけたところ、予想外に大きな反響があって工事は完全にストップしました。

その一方で、「町づくりシンポの会」という住民グループを作った川づくりの勉強を始めました。全国の川を視察してね。僕としては、コンクリートの川では味気ないという単純な思いだけで始めたこと。しんどかったというより、楽しく遊ばせてもらいましたよ。

秋になるとコスモスの群生が川べりを覆う



豊秋河原のシンボル・大榎は樹齢250年以上で、県の天然記念物に指定されている



一級河川・肱川の支流である小田川。「大洲和紙」や「大風」を育んだ清流は、自然を生かした住民の憩いの場として親しまれている。内子町役場周辺の川沿いの道を歩いてみた。さわやかな風を受け、水面の青と川べりの緑の眺めが何とも心地よい。途中、浅瀬で水遊びをする子どもや釣り人、スポーツを楽しむグループに出会う。河原ではよくイベントも開かれていて、川とのふれあいは生活の一部のようだ。聞けば河川改修を行う際、コンクリート護岸に反対する住民運動によって自然環境に配慮した工事が進められたのだとか。改修から10年以上が過ぎた今、昔と変わらず美しい姿をとどめる小田川。春は桜、夏は新緑、秋にはコスモスが彩りを添え、鳥や虫、魚たちが棲むやさしい水辺は、これからも「心のふるさと」であり続けることだろう。



川沿いの「いかざきの杜」は、サイクリングや散歩に最適